

# 22PO-pm379

## 薬剤師の真意を患者に伝えることの重要性

○中村 武夫<sup>1</sup> (近畿大薬)

【目的】薬剤師法に定められた「国民の健康な生活を確保する。」という薬のプロフェッショナルとしての薬剤師の任務を果たす上において、法遵守に基づいた患者とのコミュニケーションは欠かすことができない。今回、「飲酒を控えてください」という一言の真意について、薬学生にアンケートを実施し、検討した。

【方法】抗アレルギー薬服用の花粉症患者が飲酒後、電車ホームから転落し轢死した事故事例を薬学生に概説した前後の「飲酒を控えてください」という表現の真意について、薬学部6年生にアンケートを実施した。なお、本アンケートは近畿大学薬学部倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】事故事例を概説する前の「飲酒を控えてください」の真意について、「禁酒」「機会節酒」「量的節酒」との回答はそれぞれ37.3%、37.3%、11.9%であった。事故事例を概説する際に、薬剤師法や医療法に基づいた業務の重要性を述べたところ、「飲酒を控えてください」の真意を「禁酒」とする回答割合が増大した。また飲酒習慣のある学生ほど、「控えてください」の真意を「禁酒」とする回答割合が少なかった。

【考察】薬剤師による服薬指導において使用する言葉が患者に理解できないもの、あるいは誤解を招く表現であると当事者間にコミュニケーションギャップが生じる。この乖離は処方薬剤の適正使用を妨げ、患者の安全を脅かし、結果として医療事故の要因ともなり得る。薬剤師が患者にとって個別最適な服薬指導を行うためには、薬剤師による説明・指導内容を患者が納得するという相互理解性の高いものであるべきである。医療安全の観点からも薬剤師の真意を伝えることの重要性が示唆された。